４．茨木城

茨木城が歴史の表舞台に登場するのは応仁の乱が起こってからです。

信長配下となった中川清秀や豊臣家に深く関わった片桐且元・貞隆兄弟が茨木城に入っていたことでも知られています。

慶長 20 年（1615）、徳川幕府の一国一城令で摂津は高槻城のみとなり茨木城は廃城となる。

現在の城跡は宅地化され、茨木神社に移築されたと言われている搦手門と茨木小学校に復元された櫓門がある程度で、城をしのばせるものはほとんど残っていません。

櫓門は、慈光院（奈良県大和郡山市）に移築し、茨木小学校に復元された城門はこれをもとにデザインされたものです。

５．茨木神社

大同 2 年（807 年）、坂上田村磨が荊切の里（地名「茨木」の由来）を作った際、今は奥宮となっている天石門別神社が創建されたのに始まると伝えられる。

当時は、現在の茨木市宮元町に鎮座していた。天石門別神社の名は、「延喜式神名帳」にも見える。楠木正成が茨木城を築くに当たって現在の位置へ遷座し、以後代々城主の崇敬を受けた。

織田信長は統治手段としてキリスト教を保護し、一方で社寺の破壊を行っていたが、天照大御神、春日大神（天児屋根命）、八幡大神（誉田別命）それに信長自身の産土神である牛頭天王（素戔嗚尊）だけは、さすがの信長も恐れて破却しなかった。

そこで天石門別神社は社名を隠し「牛頭天王社」と号して破却を免れ、また後になって素戔嗚尊を実際に合祀したという。元和 8 年（1622 年）には社殿を新築すると共に、従来の天石門別神社を奥宮とし、素戔嗚尊を本殿に遷して本社とした。明治 5 年（1872 年）には郷社に列せられている。

茨木神社には、茨木城の搦手門が移築されています。

令和 4 年（2022）は、現本殿が創建されて四百年の年になります。この佳節を迎えるにあたり御本殿創建四百年記念事業委員会を結成し、以下の事業を遂行されています。

１） 御本殿修復及び屋根葺替　２）幣殿及び拝殿の造替

令和 4 年 9 月 20 日に正遷宮を斎行し、大神様を仮殿から御本殿へお遷しされました。

また翌月 10 日には、当社例祭に合わせ、奉祝祭・奉告祭を斎行されました。
今後は、手水舎の建設並びに玉垣等の建立を進めておられます。